

行政評価シート（事務事業評価）		評価年度	26年度
事業名	市立図書館管理運営事業	担当課	教育課
細分化した事業名	市立図書館管理運営事業		

### 1 計画(PLAN):事務事業の計画的位置づけ

第6次長期総合計画での目的体系	基本方向	魅力あふれるまちづくり		
	政策	いつまでも生きがいを持って暮らせるまちづくり		
	施策	生涯学習の推進		
関連する個別計画等	社会教育計画、韮崎市子ども読書活動推進計画	根拠条例等	韮崎市立図書館条例	

### 2 計画(PLAN):事務事業の概要

事業の目的	利用者の多様なニーズに応えた図書館資料の整備を図り、利用者の求める資料を速やかに提供し、生涯学習機会の増進を図ると共に自己学習を支援する。
事業の手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 火曜日から日曜日までの週6日間、平日は午前10時から午後7時、土日・祝日は午前9時から午後5時まで図書館を開館。</li> <li>・ 登録者1名につき図書資料10点（2週間期限）、視聴覚資料2点（8日間期限）を上限として貸出す。</li> <li>・ 図書館の資料を利用した資料相談、利用者の調査・研究のために図書館資料の複写のサービスを行う。</li> <li>・ 貸出中の図書の予約の受付、図書館に所蔵されていない図書を他の図書館から借り受け、又は新たに購入して提供する。</li> <li>・ 交流センター2階部分の学習室（無料）、会議室・グループ研究室（有料）の管理・貸出を行う。</li> <li>・ 広報・図書館だより・図書館のホームページ等で新刊書や休館日、イベント情報等を知らせる。</li> <li>・ 一般・児童・乳幼児向けに、各種のイベント・講座等を企画・開催する。</li> </ul>
事業の対象	図書館利用者

### 3 実施(DO):投入費用及び従事職員の推移(インプット=費用+作業)

		23年度	24年度	25年度
A	事業費 (千円)	53,439	57,742	64,238
財源内訳	国・県支出金	13,388		
	その他(使用料・借入金ほか)	1	206	32
	一般財源	40,050	57,536	64,206
B	担当職員数(職員E) (人)	0.67	0.98	0.98
C	人件費(平均人件費×E) (千円)	4,569	6,553	6,361
D	総事業費(A+C) (千円)	58,008	64,295	70,599
主な事業費用の説明		図書館指定管理料 52,998千円、図書館システム保守点検業務委託 2,898千円はH23年度以降の通常経費だが、 寄贈図書装備及び書誌データ作成業務委託 7,651千円はH25年度の臨時的経費である。		

注)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、23年度(6,819千円)、24年度(6,687千円)、25年度(6,491千円)を使用しています。

### 4 実施(DO):事業を数字で分析(アウトプット=事業量)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			23年度	24年度	25年度
活動指標	1 貸出点数	1年間の総貸出点数(点) ※23年度は7ヶ月間の値	92,210	158,589	156,613
	2 入館者数	1年間の総入館者数(人) ※23年度は7ヶ月間の値	80,748	126,579	120,558
	3 蔵書数	各年度末の蔵書総数(点)	98,052	108,121	124,102
妥当性		<input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない			
上記活動指標と妥当性の説明		1 24年度と比べ、9月が前年比90%、2月が前年比83%に減少した(大雪の影響)が、それ以外の月は94~108%で、年間では前年比99%の貸出点数だったので、ほぼ妥当である。 2 24年度と比べ、9月が前年比83%、2月が前年比74%に減少した(大雪の影響)が、それ以外の月は93~104%で年間では前年比95%の入館者数だったので、ほぼ妥当である。 3 24年度は23年度の1.10倍(10,069点増加)、25年度は寄贈が9,000点以上あり24年度の1.15倍(15,981点増加)に蔵書が増えたので、妥当である。			

5 評価(CHECK): 事務事業評価 (アウトカム=成果・効果)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			23年度	24年度	25年度
成果指標 もしくは まちづくり 指標	1	1人当たりの貸出点数 貸出点数/人口(点) 156,613点/31,039人	2.91	5.06	5.05
	2	1日当たりの入館者数 年間入館者数/開館日数 120,558人/292日	477.8	432.0	412.9
	3	1人当たりの蔵書点数 蔵書点数/人口(点) 124,102点/31,039人	3.10	3.45	4.00
成果		<input type="checkbox"/> A 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない			
上記指標の妥当性と成果の内容説明	1	貸出総点数は前年度より2,000点近く減ったが、人口1人当たりの貸出点数にするとわずかな減少に留まったので、成果はほぼ上がっている。			
	2	前年度より約19人の減となった。特に25年度は2月の大雪が入館者数と貸出点数に大きく影響し、ともに前年度割れとなった。入館者に関しては成果が上がらなかった。			
	3	大量の寄贈もあり、人口1人当たりの蔵書点数が前年より約1/2冊(0.55冊)増えたので、成果はほぼ上がっている。			

事務事業総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成
----------	--

6 改善(ACTION): 今後の事務事業の展開

今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 拡大(コストを集中的に投入する) <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善(事務的な改善を実施する) <input type="checkbox"/> 全部改善(内容・手段・コスト・実施主体等の見直しが必要) <input type="checkbox"/> 縮小(規模・内容を縮小、又は他の事業と統合する) <input type="checkbox"/> 廃止(廃止の検討が必要)
事務事業の改善案	改善の概要・方向性(いつまでに、どういう形で具体化するのか)
	26年度の改善計画(今後の事業展開説明) ・23年度の新装開館以来、年イベントや展示等を増やしており、入館者数や貸出点数の増加に結びつけようと工夫を続けている。今後も取り組みを継続していく。 ・県立図書館や新規の周辺図書館に対して閉館時間が早いとの声があるので、今後検討の必要がある。
過去の改善経過	平成6年度より常時2名(職員1名、非常勤1名)の体制になる。 平成17年度より常時3名(職員1名、臨時2名)の体制になる。 平成18年度より常時4名(職員1名、非常勤1名、臨時2名)の体制になる。 平成23年4月1日～9月2日、葦崎市民交流センター2階へ移転のため休館。 平成23年9月3日より、ICチップを使用したコンピュータシステムを導入し、指定管理者による運営で、葦崎市民交流センター2階に新装オープン。平成23年度末までの入館者数は80,784人(7ヶ月間)。初めての通年開館となった平成24年度(H24.4～H25.3)の入館者数は126,579人。 平成25年1月21日より、国立国会図書館デジタル化資料送信サービス運用開始。
課長所見	常に市民目線で利便性の促進に努め、H26年3月策定の市子ども読書活動推進計画にも対応した事業に取り組んでいる。